

屋久島の *Lasioglossum* コハナバチ属 (ハチ目: コハナバチ科)幾留秀一<sup>1</sup>・村尾竜起<sup>2</sup><sup>1</sup> 〒 890-8565 鹿児島市高麗町 6-9 鹿児島女子短期大学附属南九州地域科学研究所<sup>2</sup> 〒 814-0015 福岡市早良区室見 1 丁目 10-12 ヒルズ室見 1 F (株) 地域環境計画

## Abstract

Yakushima Island belongs to the Osumi Islands, Northern Ryukyus, Japan. A list of members of the bee genus *Lasioglossum* from this island presented in this paper is based on 1,002 specimens collected by Ikudome (1982–1983) and Yumoto (1985–1986) in addition to data from the literature after Ikudome (1999). A total of 29 species is recorded, five species of which, *L. hoffmanni*, *L. metis*, *L. pallilomum*, *L. politum pekingense* and *L. sulcatulum longifacies*, are new to this island. In the point of view of distributional categories, two species, *L. smilodon* and *L. yakushimense*, appear to be endemic, and the wide-ranging species (Palearctic and Oriental regions) is only one, *L. villosulum*. The remainder are Palearctic species; none from the Oriental region is represented.

## はじめに

コハナバチ属のハナバチは種数が多く、そのほとんどは体長 10 mm 前後の小型で、形態的にも相互によく類似しているため、日本産の他のハナバチ群に比して分類学的研究が後れていた。そのような状況下、ある地域のハナバチ相に関する生態学的調査報告等では、特にコハナバチ類は未分類種として扱われるか割愛されることがしばしばあった。しかし、近年、日本産本属の分類学的研究は急速に進展し、現在、74 種に整理されている (村尾, 2020)。

一方、屋久島のハナバチ類は、幾留 (1999) によってそれまでの記録が整理されたが、上述の理由から特にコハナバチ属の情報は一部にとどまっ

ていた。もとより屋久島はその地理的位置や地形から生物多様性に富んでいることもあって、昆虫に関する調査が幾度となく実施されてきている。なかでもハナバチ類については、主に二つの生態学的調査、すなわち 1982 年 4 月から 1983 年 3 月の 1 年間に実施された人里地域 (低地 0–200 m) におけるフェノロジー調査 (幾留, 2005) および 1985 年・1986 年の 2 年間にわたって実施された垂直分布に沿った各種樹林帯 (200, 1000, 1200, 1600 m) における送粉昆虫の調査 (Yumoto, 1986, 1988: ハナバチ類の同定は幾留が担当) が挙げられる。しかし、これら二つの調査結果においても上述の理由からコハナバチ属の扱いは充分ではなかった。

そこで、本報では、Yumoto (1986, 1988) および幾留 (2005) において、明らかにできなかったコハナバチ属の種名をその採集データ (年月日、個体数、場所、訪花植物名) とともにここに記録しておくことを目的のひとつとし、幾留 (1999) 以降の文献上の記録、すなわち分類学関連 (Muraio et al., 2006, 2009; Muraio and Tadauchi, 2007; Muraio, 2015) や屋久島高地帯における昆虫調査 (高桑・藤田, 2010) などの現在知り得る情報を加えて屋久島の本属の目録を作成した。

その結果、屋久島の本属ハナバチは、24 種の既知情報に今回初記録となる 5 種を加えて合計 29 種が明らかとなった。また、末尾に屋久島におけるコハナバチ属相の動物地理学上の特徴および今後の課題を述べた。なお、今回記録したコハ

Ikudome, S. and R. Muraio. 2021. A list of the bee genus *Lasioglossum* from Yakushima Island (Hymenoptera, Halictidae). *Nature of Kagoshima* 47: 349–354.

✉ SI: The Institute of Minami-kyushu Regional Science, Kagoshima Women's College, 6-9 Kourai-cho, Kagoshima 890-8565, Japan (e-mail: ikudome@jkajyo.ac.jp).

Received: 17 March 2021; published online: 18 March 2021; [http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_047/047-060.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-060.pdf)



図1. 初記録種の1種：ニセキオビコハナバチ (♀), 体長約9 mm.

ナバチ類の同定は、村尾が担当した。また、本報で扱った標本は、九州大学農学研究院昆虫学教室の標本室に保管されている。

### 屋久島産コハナバチ属の目録

以下の学名、和名および配列は、村尾 (2020) に準拠した。文献記録については、幾留 (1999) 以降のみを列挙し、それ以前のは割愛した。標本データについては、採集者は幾留秀一 = SI および湯本貴和 = TY の略号を用い、1982–1983SI は幾留 (2005)、1985TY および 1986TY は Yumoto (1985, 1986) において、それぞれ未同定であった標本を示す。初記録の種には\*を付した。

#### Ctenonomia 亜属

##### 1. *Lasioglossum yakushimense* Murao, Yamauchi et Tadauchi, 2009 ヤクシマコハナバチ

文献記録 Murao et al. (2009).

標本データ 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 154♀2♂) = 11♀9 IV (シマイズセンリョウ), 2♀2-3 V (フウトウカズラ), 64♀9 11 V (ショウベンノキ), 4♀9 13 V (フウトウカズラ), 25♀9 17 V (アブラギリ), 1♀25 V (キダチニンドウ), 1♀26 V (ヒメユズリハ), 38♀9 27 V (ヤクシマアジサイ), 4♀9 31 V (アカメガシワ), 4♀9 1 VI (ヤブニッケイ), 2♂♂ 17 VI (バリバリノキ)

屋久島固有種で、マレーゼトラップで採集された標本を基に新種記載された (Murao et al.,

2009)。原記載によると、雌は7–8月、雄は6–8月に出現するとされていたが、本報により、本種の雌は春季から出現することが判明した。

#### *Lasioglossum* 亜属

##### 2. *Lasioglossum exiliceps* (Vachal, 1903) ミヤマツヤコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

標本データ 1986TY: 屋久杉ランド (1000 m, 1♀) = 13 X (キッコウハグマ); 淀川小屋 (1200 m, 8♀♀) = 1♀8 V (シキミ), 1♀12 V (ヒカゲツツジ), 2♀♀4 VI (ユズリハ), 2♀♀7 VI (ヤクシマシャクナゲ), 1♀7 VI (ヤマグルマ), 1♀2 VII (ツルアジサイ); 黒味岳 (1600 m, 7♀♀1♂) = 2♀♀11 V (ヤクシマミツバツツジ), 2♀♀23 V (ヤクシマシャクナゲ, ハイノキ), 2♀♀1♂8 VIII (ヤクシマホツツジ), 1♀23 IX (ヤクシマアザミ).

##### 3. *Lasioglossum leviventre* (Pérez, 1905) ハラナガツヤコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI (幾留, 2005: 再掲 = *laeviventre*): 尾之間 (40–100 m, 2♀♀) = 23 IV (シャリンバイ). 1986TY: 黒味岳 (1600 m, 4♀♀) = 1♀10 VI (ヒメミヤマスマレ), 1♀8 VII (タンナサワフタギ), 1♀24 VII (コバノクロツル), 1♀8 VIII (ヤクシマホツツジ).

##### 4. *Lasioglossum proximum* (Smith, 1879) ズマルツヤコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

#### *Leuchaliectus* 亜属

##### 5. *Lasioglossum mutilum* (Vachal, 1903) サビイロカタコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI: 宮之浦 (0–60 m, 1♀) = 28 VI (モクタチバナ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 1♀1♂) = 1♀6 IV (コジキイチゴ), 1♂19 IV (フユイチゴ).

##### 6. *Lasioglossum nipponicola* Sakagami et Tadauchi, 1995 ニッポンカタコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

標本データ 1986TY: 屋久杉ランド (1000 m, 2♂♂) = 12 X (ホソバハグマ, ヤクシマダイモンジソウ); 淀川小屋 (1200 m, 2♀♀) = 2 VII (ツルアジサイ).

7. *Lasioglossum occidens* (Smith, 1873) シロスジカタコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI: 矢筈岬 (20 m, 1♀1♂) = 28 IX (ホソバワダン); 宮之浦 (0–10 m, 4♀♀1♂) = 1♀ 24 VIII (ノブドウ), 3♀♀1♂ 24 VIII (ボタンボウフウ); 宮之浦 (0–60 m, 33♀♀2♂♂) = 11♀♀ 28 V (アカメガシワ), 1♀ 28 V (ヤブニンジン), 2♀♀ 30 VI (モクタチバナ), 1♀ 30 VI (ニンジン), 18♀♀ 26 VII (タラノキ), 1♂ 26 IX (シソ), 1♂ 26 IX (オトコエシ); 尾之間 (40–200 m, 52♀♀6♂♂) = 12♀♀ 27 V (ノイバラ), 21♀♀ 27 V (アカメガシワ), 2♀♀ 27 V (サワアジサイ), 1♀ 27 V (ノイバラ), 3♀♀ 29 VI (アカメガシワ), 2♀♀ 29 VI (オオムラサキシキブ), 1♀ 29 VI (コフジウツギ), 1♀ 29 VI (アジサイ), 1♀1♂ 27 VII (ウコギ), 1♀ 27 VII (コフジウツギ), 2♀♀ 27 VII (タデ), 5♀♀ 27 VII (クマノギク), 5♂♂ 27 IX (クヘヤ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 87♀♀17♂♂) = 1♀ 30 III (タブノキ), 1♀ 6 IV (コジキイチゴ), 1♀ 9 IV (シマイズセンリョウ), 1♀ 10 IV (コジキイチゴ), 1♀ 26 IV (クロバイ), 1♀ 6 V (ホソバタブ), 1♀ 13 IV (フウトウカズラ), 20♀♀ 17 V (アブラギリ), 5♀♀ 25 V (キダチニンドウ), 4♀♀ 26 V (ヒメユズリハ), 6♀♀ 27 V (ヤクシマアジサイ), 4♀♀ 31 V (アカメガシワ), 5♀♀ 1 VI (ヤブニッケイ), 10♀♀ 14 VI (シラタマカズラ), 9♀♀ 28 VI (モクタチバナ), 1♀ 16 VII (ミミズバイ), 4♂♂ 17 VII (バリバリノキ), 2♀♀ 1 VIII (オオムラサキシキブ), 7♀♀9♂♂ 17 VIII (フユイチゴ), 3♀♀1♂ 17 VIII (クサギ), 2♀♀2♂♂ 24 VIII (クサギ), 1♀ 18 IX (キンミズヒキ), 1♂ 7 X (オトコエシ), 1♀ 6 XI (ツワブキ).

8. *Lasioglossum scitulum* (Smith, 1873) フタモンカタコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI (幾留, 2005: 再掲):

尾之間 (40–100 m, 2♀♀) = 23 IV (カラシナ); 尾之間 (40–200 m, 7♀♀1♂) = 5♀♀ 27 V (ノイバラ), 1♀ 23 X (サツマイモ), 1♂ 27 IX (クヘヤ), 1♀ 27 II (ゲンゲ).

*Dialictus* 亜属

9. *Lasioglossum miyabei* Murao, Ebmer et Tadauchi, 2006 ミヤベアオコハナバチ

文献記録 Murao et al. (2006).

10. *Lasioglossum virideglaucum* Ebmer et Sakagami, 1994 ホソナガアオコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

標本データ 1986TY: 淀川小屋 (1200 m, 139♀♀) = 1♀ 4 VI (ナナカマド), 3♀♀ 7 VI (ヤクシマシャクナゲ), 3♀♀ 7 VI (ヤマグルマ), 91♀♀ 2 VII (ツルアジサイ), 41♀♀ 22 VII (ヤマシグレ); 黒味岳 (1600 m, 59♀♀55♂♂) = 1♀ 23 VII (コケスミレ), 21♀♀ 24 VII (コバノクロヅル), 3♀♀ 27 VII (ヤクシマショウマ), 20♀♀19♂♂ 8 VIII (ヤクシマホツツジ), 1♀ 19 VIII (ヤクシマリンドウ), 12♀♀ 31 VIII (リョウブ), 34♂♂ 31 VIII (リョウブ), 1♂ 4 IX (イッスンキンカ), 1♀1♂ 23 IX (ハナヤマツルリンドウ).

11. *Lasioglossum yamanei* Murao, Ebmer et Tadauchi, 2006 ヤマネアオコハナバチ

文献記録 高桑・藤田 (2010).

*Hemihalictus* 亜属

12. *Lasioglossum hirashimae hirashimae* Ebmer et Sakagami, 1985 ウマズラチビコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

標本データ 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 6♀♀8♂♂) = 2♀♀ 17 VIII (フユイチゴ), 4♂♂ 8 IX (ガンクビソウ), 1♂ 24 IX (ヒメジソ), 4♀♀2♂♂ 30 IX (ヒメジソ), 1♂ 30 IX (オトコエシ). 1986TY: 屋久杉ランド (1000 m, 1♂) = 12 X (ホソバハグマ).

13. *Lasioglossum japonicum* (Dalla Torre, 1896) ニツボンチビコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

標本データ 1982–1983SI: 矢筈岬 (20 m, 1♂) =

28 IX (ホソバワダン); 宮之浦 (0–60 m, 8♀♀) = 1♀ 26 V (ヤブジラミ), 1♀ 26 V (アカメガシワ), 2♀♀ 28 V (ヤブニンジン), 1♀ 28 VI (センダングサ), 1♀ 30 VI (モクタチバナ), 1♀ 26 IX (アメリカセンダングサ), 1♀ 26 IX (ホソバワダン); 尾之間 (40–100 m, 4♀♀) = 1♀ 23 IV (カラシナ), 3♀♀ 23 IV (シャリンバイ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 12♀♀15♂♂) = 1♀ 9 IV (シマイズセンリョウ), 1♂ 26 IV (クロバイ), 1♀1♂ 1 V (コナスビ), 1♂ 17 V (アブラギリ), 1♀1♂ 26 V (ヒメユズリハ), 1♀ 27 V (ヤクシマアジサイ), 1♀ 16 VI (ミミズバイ), 3♀♀1♂ 28 VI (モクタチバナ), 1♀ 17 VIII (フユイチゴ), 2♀♀2♂♂ 8 IX (ガンクビソウ), 1♂ 24 IX (ヒメジソ), 1♀ 30 IX (ヒメジソ), 2♂♂ 30 IX (オトコエシ), 1♂ 30 IX (ヒメジソ), 4♂♂ 7 X (オトコエシ).

14. *Lasioglossum kuroshio* Takahashi et Sakagami, 1993 クロシオチビコハナバチ

文献記録 Murao (2015).

標本データ 1982–1983SI: 宮之浦 (0–10 m, 1♀) = 24 IV (シャリンバイ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 66♀♀) = 20♀♀ 9 IV (シマイズセンリョウ), 4♀♀ 13 IV (スダジイ), 26♀♀ 26 IV (クロバイ), 11♀♀ 28 IV (エゴノキ), 1♀ 6 V (ホソバタブ), 3♀♀ 11–12 V (ショウベンノキ), 1♀ 28 VI (モクタチバナ). 1986TY: 黒味岳 (1600 m, 1♂) = 31 VIII (リョウブ).

15. *Lasioglossum metis* Ebmer, 2002 ツヤチビコハナバチ\*

標本データ 1982–1983SI: 尾之間 (40–100 m, 1♀) = 23 IV (シャリンバイ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 6♀♀) = 27 V (ヤクシマアジサイ). 1986TY: 淀川小屋 (1200 m, 7♀♀) = 1♀ 24 V (ハイノキ), 6♀♀ 2 VII (ツルアジサイ).

16. *Lasioglossum ohei* Hirashima et Sakagami, 1966 オオエチビコハナバチ

文献記録 幾留 (2005).

17. *Lasioglossum pallilomum* (Strand, 1913) オバケチビコハナバチ\*

標本データ 1982–1983SI: 小瀬田 (20–30 m, 1♂) = 22 X (オトコエシ); 尾之間 (40–100 m, 8♀♀) =

1♀ 23 IV (キャベツ), 2♀♀ 27 V (ノイバラ, アカメガシワ), 2♀♀ 29 VI (テリハノイバラ), 1♀ 27 VII (タデ), 2♀♀ 23 X (アキノキリンソウ, サツマイモ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 2♀♀) = 1♀ 1 V (イワニガナ), 1♀ 30 IX (ヒメジソ).

18. *Lasioglossum smilodon* Ebmer et Sakagami, 1994 トゲホオチビコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI: 宮之浦 (0–60 m, 2♀♀) = 1♀ 26 V (アカメガシワ), 1♀ 28 V (アカメガシワ).

19. *Lasioglossum sphecodicolor* Sakagami et Tadauchi, 1995 ハラアカチビコハナバチ

文献記録 Murao (2015).

標本データ 1982–1983SI: 宮之浦 (0–60 m, 1♀) = 26 IX (カワラケツメ); 尾之間 (40–200 m, 1♀) = 27 IX (クヘヤ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 24♀♀) = 7♀♀ 9 IV (シマイズセンリョウ), 6♀♀ 13 IV (スダジイ), 2♀♀ 6 V (ホソバタブ), 4♀♀ 11 V (ショウベンノキ), 1♀ 13 V (フウトウカズラ), 1♀ 26 V (ヒメユズリハ), 2♀♀ 17 VIII (フユイチゴ), 1♀ 16 IX (カラスザンショウ).

20. *Lasioglossum sulcatulum longifacies* Sakagami et Tadauchi, 1995 オオズナガチビコハナバチ\*

標本データ 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 1♀1♂) = 1♀ 25 V (キダチニンドウ), 1♂ 14 VI (シラタマカズラ). 1986TY: 黒味岳 (1600 m, 1♀1♂) = 1♀ 21 VIII (ヤクシマフウロ), 1♂ 4 IX (イッスンキンカ).

21. *Lasioglossum transpositum* (Cockerell, 1925) ハネダチビコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

22. *Lasioglossum villosulum* (Kirby, 1802) ケナガチビコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI: 矢筈岬 (20 m, 1♀) = 28 IX (アキノノゲシ); 尾之間 (40–100 m, 9♀♀) = 23 IV (ハルノノゲシ).

*Sphecodogastra* 亜属

23. *Lasioglossum affine* (Smith, 1853) ズマルコハナ

## バチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI: 尾之間 (40–100 m, 4♀♀) = 2♀♀ 23 IV (カラシナ, タマネギ), 2♀♀ 23 IV (ハルノノゲシ).

24. *Lasioglossum apristum* (Vachal, 1903) ニジイロコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1986TY: 屋久杉ランド (1000 m, 1♂) = 12 X (ホソバハグマ); 黒味岳 (1600 m, 16♀♀) = 6♀♀ 24 VII (コバノクロヅル), 10♀♀ 8 VIII (ヤクシマホツツジ).

25. *Lasioglossum baleicum* (Cockerell, 1937) シオカワコハナバチ

文献記録 幾留 (1999).

標本データ 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 1♀) = 26 IV (クロバイ). 1986TY: 淀川小屋 (1200 m, 5♀♀) = 1♀ 24 V (サクラツツジ), 4♀♀ 22 VII (ヤマシグレ); 黒味岳 (1600 m, 28♀♀3♂♂) = 1♀ 9 V (ヒメヒサカキ), 2♀♀ 11 V (ツゲ, ヤクシマミツバツツジ), 1♀ 23 VII (ヤクシマコオトギリ), 9♀♀ 24 VII (コバノクロヅル), 9♀♀ 8 VIII (ヤクシマホツツジ), 1♀ 21 VIII (ヤクシマフウロ), 3♂ 31 VIII (リョウブ).

26. *Lasioglossum hoffmanni* (Strand, 1915) ニセキオビコハナバチ\* (図 1)

標本データ 1982–1983SI: 宮之浦 (0–60 m, 35♀♀) = 20♀♀ 26 V (アカメガシワ), 15♀♀ 28 V (アカメガシワ).

27. *Lasioglossum sibiricum* (Blüthgen, 1923) キオビコハナバチ

文献記録 幾留 (1999, 2005).

標本データ 1982–1983SI (幾留, 2005: 一部再掲): 宮之浦 (0–10 m, 1♀) = 24 IV (シャリンバイ); 宮之浦 (0–60 m, 2♀♀) = 26–28 V (アカメガシワ); 尾之間 (40–200 m, 5♀♀2♂♂) = 4♀♀ 27 II (ゲンゲ), 1♀ 27 II (リュウキュウバライチゴ), 2♂♂ 29 VI (ウラジロエノキ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 3♀♀) = 1♀ 30 III (タブノキ), 1♀ 9 IV (シマイズセンリョウ), 1♀ 26 IV (クロバイ).

28. *Lasioglossum vulsum* (Vachal, 1903) ヒゲナガコ

## ハナバチ

文献記録 幾留 (2005).

標本データ 1982–1983SI: 宮之浦 (0–60 m, 2♀♀) = 28 V (アカメガシワ); 尾之間 (40–200 m, 5♀♀14♂♂) = 5♀♀ 27 V (アカメガシワ), 14♂♂ 29 VI (ウラジロエノキ). 1985TY: 小瀬田, 愛宕山 (200 m, 1♀) = 31 V (アカメガシワ).

## 垂属未決定

29. *Lasioglossum politum pekingense* (Blüthgen, 1925) ツヤハラアカチビコハナバチ\*

標本データ 1982–1983SI: 宮之浦 (0–60 m, 13♀♀1♂♂) = 6♀♀ 30 VI (モクタチバナ), 3♀♀ 26 VII (タラノキ), 4♀♀1♂♂ 26 IX (カワラケツメイ); 尾之間 (40–100 m, 17♀♀) = 2♀♀ 29 VI (ウラジロエノキ), 14♀♀ 27 VII (ウコギ), 1♀ 27 VII (クマノギク).

本種の雌は、腹部の色彩が地理的に変異することが示唆されており、西日本の個体群では、黒色となる傾向にある (Murao and Tadauchi, 2011). 本報で検した標本は、黒色型であった。

## 動物地理学上の特徴および今後の課題

屋久島のコハナバチ属相は、現在までのところ、本報における初記録 5 種を合わせて計 29 種から成ることが明らかとなった。これら各種の分布を動物地理学的に類別すると、まず固有型 (屋久島あるいは大隅諸島〜トカラ列島のみに分布) としてヤクシマコハナバチとトゲホオチビコハナバチの 2 種が挙げられる。次に広域分布型 (旧北区〜東洋区に広く分布) としてケナガチビコハナバチの 1 種が挙げられる。残る 26 種は九州本土との共通種であり、旧北区型 (一部東洋区にも分布するが、分布の中心は旧北区) とみなすことができる。すなわち、屋久島のコハナバチ属相は、若干の固有種が存在するが、大部分は屋久島あるいはその周辺の島々を南限とする北方系種で占められ、屋久島を北限とする南方系種は皆無と解釈される。

一方、九州本土のコハナバチ属は 43 種が知られ (村尾, 2020), 上述のとおり、このうち 27 種

が屋久島にも分布する。残り16種の多くは、九州本土では主に冷涼な高地に生息する種である(例えば、アルマンカタコハナバチ *Lasioglossum harmandi*, クラカケチビコハナバチ *L. allodatum*, ズナガチビコハナバチ *L. zunaga* 等)。屋久島は、九州最高峰の宮之浦岳(標高1,935 m)をはじめ、1,800 m級の山々を擁する山岳島として知られている。今後、さらに山岳地帯におけるハナバチ相の調査が進めば、九州本土の高地に生息する種が追加される可能性は高い。また、近年、南西諸島から多くのコハナバチ属の新種が発見されており、いくつかの種は、通常、単独性ハナバチ類の生息環境として適さない湿潤な樹林内あるいはその周辺の薄暗い林縁部のみから採集されている(Murao, 2012, 2017; 村尾, 2014)。屋久島においても、他の南西諸島の島々以上に、主に照葉樹林から成る樹林帯が発達することから、これまであまり注視されなかった樹林内の湿潤な薄暗い環境やアクセスの困難な樹幹部を丹念に調査すれば、未知の本属ハナバチ類が発見されるかもしれない。今後の課題としたい。

## 謝辞

本報をまとめるにあたり、湯本貴和博士(当時京都大学大学院院生)から譲り受けた多数の標本を活用させて頂いた。これは、博士自ら1984年から3年間にわたって屋久島に移住し(湯本, 1995)、植物と動物の相利共生関係の研究のための現地調査を実施されたときの研究材料であった。大変貴重な標本を託して下さった湯本貴和博士(現在京都大学霊長類研究所所長)に深甚なる謝意を表したい。なお、湯本貴和博士採集の屋久島産ハナバチ類標本は、ここで使用したコハナバチ属のみならず全てが九州大学農学研究院昆虫学教室の標本室に保管されていることを付記しておきたい。

## 引用文献

- 幾留秀一, 1999. ミツバチ(ハナバチ)群. 南西諸島産有刺ハチ・アリ類検索図説: 549-679. 北海道大学図書刊行会.
- 幾留秀一, 2005. 屋久島人里地域における野生ハナバチ相の生態的研究. 鹿児島女子短期大学紀要, (40): 1-20.
- Murao, R., 2012. *Lasioglossum (Evyllaesus) tadauchi* sp. nov. (Hymenoptera, Halictidae) from Amami-Ōshima, southwestern Japan. *Esakia*, (52): 91-94.
- 村尾竜起, 2014. 西表島における *Lasioglossum iriomotense* の追加記録と生息環境. *中国昆虫*, (27): 25-26.
- Murao, R., 2015. Notes on the distribution of the genus *Lasioglossum* (Hymenoptera: Halictidae) in eastern Asia. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 21 (1): 1-3.
- Murao, R., 2017. First description of the males of both *Lasioglossum bicornutum* Murao, 2010 and *L. latilabrum* Murao & Tadauchi, 2006 (Hymenoptera: Halictidae) occurring in the Ryukyu Islands, Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 23 (1): 67-73.
- 村尾竜起, 2020. コハナバチ属. 日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員会(編) 日本昆虫目録第9巻膜翅目(第3部細腰亜目有刺類): 299-310. 権歌書房.
- Murao, R. and Tadauchi, O., 2007. A revision of the subgenus *Evyllaesus* of the genus *Lasioglossum* in Japan (Hymenoptera, Halictidae) Part I. *Esakia*, (47): 169-254.
- Murao, R. and Tadauchi, O., 2011. Notes on color variation of *Lasioglossum (Evyllaesus) politum pekingense* (Hymenoptera, Halictidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 17 (1): 55-58.
- Murao, R., Ebmer, A.W. and Tadauchi, O., 2006. Three new species of the subgenus *Evyllaesus* of the genus *Lasioglossum* from eastern Asia (Hymenoptera, Halictidae). *Esakia*, (46): 35-51.
- Murao, R., Tadauchi, O. and Yamauchi, T., 2009. Taxonomic revision of the subgenus *Ctenonomia* of the genus *Lasioglossum* (Hymenoptera, Halictidae) in Japan. *Esakia*, (49): 75-94.
- Murao, R., Tadauchi, O. and Lee, H. S., 2015. Synopsis of *Lasioglossum (Dialictus)* Robertson, 1902 (Hymenoptera, Apoidea, Halictidae) in Japan, the Korean Peninsula and Taiwan. *European Journal of Taxonomy*, 137: 1-50.
- 高桑正敏・藤田 宏, 2010. 屋久島高地帯花之江河周辺における昆虫調査. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 39: 35-38.
- Yumoto, T., 1986. The ecological pollination syndromes of insect-pollinated plants in an alpine meadow. *Ecological Research*, 1: 83-95.
- Yumoto, T., 1988. Pollination systems in the cool temperate mixed coniferous and broad-leaved forest zone of Yakushima Island. *Ibid*, 3: 117-129.
- 湯本貴和, 1995. 屋久島: 巨木の森と水の島の生態学. 講談社. 206 pp.